平成21年4月10日

各　　位

会　社　名　　株　式　会　社　文教堂グループホールディングス
代 表 者 名　　代表取締役社長　嶋　崎　富　士　雄
（ＪＡＳＤＡＱ　コード番号：９９７８）
問い合わせ先　　取締役管理本部長　宗　像　光　英
Ｔ　Ｅ　Ｌ　　０４４－８１１－０１１８

平成21年8月期第2四半期累計期間（連結・個別）業績予想との差異及び通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年8月期（平成20年9月1日～平成21年8月31日）の第2四半期累計期間（平成20年9月1日～平成21年2月28日）及び通期の業績予想につきまして、平成20年10月17日付当社「平成20年8月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

１．平成21年8月期連結業績予想の修正等

（１）第2四半期累計期間（平成20年9月1日～平成21年2月28日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	25,200	170	120	10
今回修正予想（B）	24,579	△233	△336	△1,219
増減額（B-A）	△621	△403	△456	△1,229
増減率（%）	△2.5%	－	－	－

（２）通期（平成20年9月1日～平成21年8月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	50,000	440	340	80
今回修正予想（B）	47,350	280	80	△1,030
増減額（B-A）	△2,650	△160	△260	△1,110
増減率（%）	△5.3%	△36.4	△76.5%	－

（３）修正の理由

当社グループは、長期化する不況の中、一段と厳しさを増す経営環境に対応すべく、経営効率の改善を最重要課題として掲げ、「①増資及び収益改善による財務体質の強化、②経営効率の悪い店を閉店し経営効率の高い店舗の出店（スクラップアンドビルド）、③効率的なオペレーティングシステムの構築と経費削減の推進、④リモデル・増床等による既存店の売上及び収益改善、⑤高収益商材の導入」を計画の基本方針として中期経営計画を策定し、収益力の向上を図ってまいりましたが、平成20年9月以降の世界的な景気悪化により個人消費が急速に冷え込み、既存店の売上が伸び悩んだことから、スクラップアンドビルド等の中期計画を大幅に見直すことといたしました。

修正した中期計画の内容といたしましては、平成 21 年 1 月 16 日付で公表した「希望退職者の募集及び特別損失の発生に関するお知らせ」にありますとおり、当初計画しておりました平成 21 年 8 月期中の不採算店舗 14 店舗の閉店を平成 21 年 8 月期第 2 四半期累計期間中に前倒しし、当社の閉店基準を超える不採算店舗 18 店舗の閉店を加え、合計 32 店舗の閉店を決定いたしました。また、店舗の閉店に伴う人員削減及び店舗運営の効率化による適正な人員規模等を検討し、希望退職による 100 名の人員削減等による経費削減計画を策定いたしました。

上記計画の推進により売上高につきましては、不採算店舗の閉店を前倒しし、当第 2 四半期累計期間中に 25 店舗を閉店したことにより、当初の予想を下回る見込みであります。利益面につきましては、売上高の減収による売上総利益の減少に加え、閉店店舗の増加による閉店にかかる経費 20 百万円の増加等により、予想を下回る見込みであります。

当期純利益につきましては、平成 21 年 1 月 16 日付で公表した「希望退職者の募集及び特別損失の発生に関するお知らせ」にあります特別損失の発生額を精査した結果、不採算店の閉店に伴う固定資産の除却損及び賃貸借契約等解約損 787 百万円、閉店予定店舗の減損損失 151 百万円、希望退職による割増退職金支給額 77 百万円を計上したことに加え、先行き不透明な経済環境を考慮し繰延税金資産の一部を取り崩したことにより税金費用が増加し、予想を下回る見込みであります。

通期につきましては、不採算店舗の閉店前倒しにより減収とはなるものの、人件費等の経費削減効果約 300 百万円を見込んでおり、営業利益、経常利益につきましては、第 2 四半期累計期間より増益となる見込みであります。

2．平成 21 年 8 月期個別業績予想の修正等

（1）第 2 四半期累計期間（平成 20 年 9 月 1 日～平成 21 年 2 月 28 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	240	130	135	80
今回修正予想（B）	153	0	8	△131
増減額（B-A）	△87	△130	△127	△211
増減率（%）	△36.3%	△100.0%	△94.1%	－

（2）通期（平成 20 年 9 月 1 日～平成 21 年 8 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	400	180	190	110
今回修正予想（B）	310	35	50	△105
増減額（B-A）	△90	△145	△140	△215
増減率（%）	△22.5%	△80.6%	△73.7%	－

（3）修正の理由

主要な子会社である株式会社文教堂の不採算店舗の閉店による売上高の減収に伴い、売上連動による経営指導料収入が減少したことにより、売上高、営業利益及び経常利益につきましては予想を下回る見込みであります。

当期純利益につきましては、先行き不透明な経済環境を考慮し繰延税金資産の一部を取り崩したことにより税金費用が増加し、予想を下回る見込みであります。

以　上